

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護学概論		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 人間の性と生殖過程及びその過程における健康及び権利について理解する 2. 母性看護の概念を理解する 3. 母性看護の理念と法律について理解する 4. 女性のライフサイクル各期における看護について理解する				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性の概念と定義 2) 母性看護の意義と役割			講義
	2	3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルツ/ライツ 5) ヘルスプロモーション			講義
	3・4	6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における生命倫理			講義・GW
	5・6	2. 母性看護の対象と理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態機能の変化			講義
	7	2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承 ※ジェンダー含む			講義
	8	3. 母性看護を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 ※保健統計と関連法規含む			講義
	9	2) 母性看護の対象を取り巻く看護			講義
	10	4. 母性のライフステージ各期における看護 1) 女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護			講義
	11	3) 成熟期の健康と看護			講義
	12	4) 更年期の健康と看護 5) 老年期の健康と看護			講義
	13	5. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症と予防			講義
	14	3) 人工妊娠中絶と看護 4) 喫煙女性の健康と看護 5) DVを受けた女性の看護			講義
	15	筆記試験(45分)			
	評価方法	筆記試験 100%			
テキスト	医学書院：系統看護学講座 母性看護学概論				
参考文献	厚生統計協会：国民衛生の動向 メヂカルフレンド社：新体系 看護学全書 母性看護学概論／ウイメンズヘルスと看護 メディカ出版：ナーシング・グラフィカ 母性看護学Ⅰ 概論・リプロダクティブヘルスと看護				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部位を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する		

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	正常な経過をたどる妊産褥婦の看護		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位	30時間	講師名 看護師.
学習目標	1. 正常経過にある妊産褥婦の身体・心理・社会的特徴について理解する。 2. 正常経過にある妊産褥婦と新生児の看護を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	1. 妊娠期における看護 1) 妊娠の生理			講義
	2	2) 母体の生理的变化			講義
	3	3) 胎児の発育とその生理			講義
	4	4) 心理・診断・検査			講義
	5	5) アセスメント			講義
	6	2. 分娩期における看護 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過			講義
	7	3) 産婦・胎児・家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 5) 分娩期の看護			講義
	8	3. 産褥期における看護 1) 褥婦の経過			講義
	9	2) 褥婦のアセスメントの視点①			講義
	10	2) 褥婦のアセスメントの視点②			講義
	11	3) 褥婦と家族の看護 4) 施設退院後の看護			講義
	12	4. 新生児期における看護 1) 新生児の生理			講義
	13	2) 新生児のアセスメントの視点と看護 (1) 出生食後から24時間			講義
	14	(2) 24時間以降から退院まで (3) 生後1か月健康診査に向けた退院時の看護			講義
15	終講試験				
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	医学書院：系統看護学講座 母性看護学各論				
参考文献	1. 病気がみえる Vol.10 産科 MEDIC MEDIA				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	1. テキスト・配布資料は熟読し活用すること		

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	異常な経過をたどる妊産褥婦の看護		
開講時期	2 年次	単位・時間	1 単位 15 時間	講師名	医師 看護師
学習目標	1. 妊娠、分娩、産褥経過中にみられる異常を理解する。 2. ハイリスクな状況にある妊産褥婦と健康を逸脱した新生児への看護を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1	妊産褥婦および新生児の異常 1) 妊娠の異常 ①ハイリスク妊娠 ②妊娠高血圧症候群			講義
	2	③感染症 ④常位胎盤早期剥離 ⑤前置胎盤			講義
	3	2) 分娩の異常 ①前期破水 ②遷延分娩			講義
	4	③胎勢・胎位・回旋の異常 ④分娩時異常出血 ⑤産科処置と産科手術			講義
	5	3) 新生児の異常 ①新生児合併症 ②低出生体重児 ③高ビリルビン血症			講義
	6	ハイリスクな状況にある妊産褥婦と健康を逸脱した新生児の看護 1) ハイリスク妊婦の看護 2) 異常のある産婦の看護 3) 異常分娩時の産婦の看護			講義
	7	4) 早産時、低出生体重児の看護 5) 異常のある褥婦の看護 6) 死産および障害をもつ新生児と家族の看護			講義
	8	終講試験			
評価方法	筆記試験 100%				
テキスト	医学書院：系統看護学講座 母性看護学各論				
参考文献	1. 病気がみえる Vol.10 産科 MEDIC MEDIA				
自己学習時間	30 時間	事前・ 事後学習	1. テキスト・配布資料は熟読し活用すること		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です。

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	母性看護学演習		
開講時期	2年次	単位・時間	1単位 30時間	講師名	専任講師
学習目標	1. 正常に経過する褥婦と新生児の看護過程の展開ができる。 2. 具体的な指導方法を理解する。 3. 母性看護に必要な援助御術の習得ができる。				
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態
	1・2	1.ヘルスプロモーション型看護診断に基づいた看護過程の展開 1) 事例紹介(褥婦と新生児) 2) 看護過程展開に必要な知識(アセスメントの視点)			講義
	3	3) 褥婦のアセスメント			講義 グループワーク
	4	4) 新生児のアセスメント			
	5	5) 全体像 6) 看護診断と目標			
	6	7) 看護計画立案のポイント 「観察」「援助」「保健指導」			
	7	8) 看護計画からの実施・評価			演習
	8	2.妊産褥婦及び新生児に必要な看護技術 1) 妊婦: ①子宮底長と腹囲測定 ②レオポルド触診法			
	9・10	2) 産婦: 分娩進行に伴う援助技術			
	11	3) 褥婦: ①子宮復古の観察・促進 ②産褥体操 ③乳房ケア			
	12	4) 新生児: ①全身の観察と計測 ②沐浴			演習
	13・14	3.母性看護に必要な保健指導 1) マタニティサイクルにおける保健指導			グループワーク 発表
	15	2) 思春期・更年期における保健指導(事例より) 筆記試験(20分)			グループワーク
評価方法	筆記試験 30% 課題(事例展開・技術演習)50% 模擬保健指導 20%				
テキスト	医学書院: 系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院: 看護診断ハンドブック インターメディカ: 写真でわかる母性看護技術 アドバンス				
参考文献	医歯薬出版: ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医学書院: ウェルネスからみた母性看護過程 メヂカルフレンド社: 看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 サイオ出版: 周産期ケアマニュアル				
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	前回の講義資料を復習する テキストの関連部位を読む 課題が提示された場合は、事前に調べて参加する 学習した技術の習得に向け練習をする		